

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

平成29年度第2回美里町子ども・子育て支援事業計画策定等委員会

2 開催日時 平成30年3月27日（火）午後2時00分から午後3時36分

3 開催場所 美里町役場3階会議室

4 会議に出席した者

（1）委員

塩野悦子委員長、青木英治副委員長、大平敏雄、忽那香菜子、大町龍一、
佐々木由美子、佐藤直子、鈴木一子、千代窪司

（2）事務局

子ども家庭課 課長 奥山俊之、課長補佐 須田政明

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議事（1）美里町子ども・子育て支援事業計画（修正後）について

（2）小規模保育施設に係る意見について

（3）その他

会議 公開

6 非公開の理由

—

7 傍聴人の人数

0人

8 会議の資料

1. 議事関連

- ・第2章 子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策
- ・様式第1号の別添 家庭的保育事業等実施計画書
- ・認可保育園こすずめ園入園のしおり
- ・「美里町児童福祉施設長寿命化計画(案)」概要版
- ・美里町子どもの生活に関する実態調査結果概要

9 会議の概要

1. 開会

奥山課長	本日はお忙しい中お越しいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので始めさせていただきたいと思います。澤村委員さんにつきましては欠席のご連絡を頂戴しております。本日は委員11人中9人の委員に御出席いただいておりますので、会議は成立しております。それでは、塩野先生にごあいさつをいただきたいと思います。
塩野委員長	(あいさつ省略)
奥山課長	ありがとうございました。会議の式次第にはございませんが、議事録署名委員を、大平委員と佐々木委員にお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。それから議事録の公開についてであります。議事録は後日町のホームページに公開させていただきますことを御了承いただければと思います。 それでは、進行を塩野先生によりしくお願いいたします。
塩野委員長	それでは、第2回美里町子ども・子育て支援事業計画策定等委員会の議事に入りたいと思います。 まず(1)美里町子ども・子育て支援事業計画(修正後)について説明をお願いいたします。
奥山課長	前回の会議の際に、計画に挙げていた数値と現状の差についてお示しさせていただきました。そのあと、第2回委員会の際にはこれを事業計画に入れ込んだものをお示しすると申し上げておりました。それが本日の資料でございます。「第2章 子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策」等資料で、26ページから始まっております。これは、既に委員の皆様にお示しさせていただいております「美里町子ども・子育て事業計画」の一部でございます。修正部分について御説明いたします。
奥山課長	別資料 第2章 子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策について説明

- 塩野委員長 ただいまの説明に関しまして御質問、御意見等ありませんか。
- 青木副委員長 現在なんごう幼稚園保育園が幼保一体型施設として運営されていますが、一体型施設と認定こども園との明確な違いはどこにあるのでしょうか。
- 奥山課長 一番の違いと思われる部分は、3、4、5歳児についてであります。保育園（所）は、基本的に両親が就労していなければ利用することができず、既に通っているお子さんであっても、例えばお母さんが会社を退職した場合には退所しなければいけません。一方認定こども園につきましては、両親の就労に関係なく利用することができます。
- また、保育園（所）につきましては、保育料が、各市町村で定めた額にはなり、親の所得状況に応じて違ってきますが、町内の公立幼稚園では月額保育料が一律になっております。もちろん減免などの制度はありますが、所得状況とは直接関係がないということがあります。
- ところが、認定こども園になりますと、保育所と同じように所得の状況によって保育料が決まることとなります。したがって、現在幼稚園を利用されている保護者の方によっては、認定こども園になることによって保育料が増額される可能性が出てまいります。おそらくこの2点が大きな違いであると思います。
- 本町でも幼稚園の部分で将来的な認定こども園化の検討を行いましたが、現在利用している家庭の所得状況による保育料の算定を行ったところ、負担増になる家庭がかなり多くなるという結果となりました。
- 青木副委員長 ありがとうございます。それでは、例えばなんごう幼稚園保育園の場合ですと、両親が働いていて所得がある程度高い御家庭では、保育園ではなく幼稚園に、という話も出ているのでしょうか。
- 鈴木園長 なんごう幼稚園保育園の場合ですと、両親が選ぶこととなります。中には、保育料がいくら高くなっても保育園がいい。又は幼稚園がいいという御家庭それぞれあり、保育料に関係なく選ぶ方もいれば、保育料を基準に選ぶ方もいるという現状です。
- 青木副委員長 保育に関しては一緒に遊んだりするのでしょうか。
- 鈴木園長 3、4、5歳児は全員同じクラスですので、やることは一緒です。美里町では、教育委員会関係の「教育」というかたちでの幼稚園運営になっているので、考え方や子どもの育て方の基本方針を同じ方向にもっていかなければならず、簡単に認定こども園とすることは難しい状況です。
- 奥山課長 余談ですが、教育委員会の担当だった者が近隣市町の認定こども園の状況について調べたところ、認定こども園化するメリットは無いように思われたと申しておりました。
- 忽那委員 今の話を聞いていると、現状では幼稚園教育にするか保育園教育にするか親が選べますが、認定こども園になれば一律ということになり、選

びようがないということになりますよね。

鈴木園長 そうなります。ただ、保護者からすれば、働いているいないに関わらず、お子さんを受け入れえもらえるというメリットはありますが、受け入れる側からすれば現状の一体型施設の方がいいと思われます。

奥山課長 現状で保育園籍のお子さんをどのように受け入れているのかと言いますと、午前9時から午後1時までの時間帯は幼稚園籍のお子さんと一緒にクラスで教育を受けております。

忽那委員 給食も一緒という話でしたね。

鈴木園長 はい。

青木副委員長 違いとなってくると、保育園の方がいいという保護者さんは、例えば土曜日に預ける関係でしょうか。土曜日は開いているのでしょうか。

鈴木園長 保育園は土曜日も開いております。幼稚園の方も土曜日の預かりはしていますが、就労していることを基本に考えてほしいとお願いしておりますので、何でも見てもらえるということで保育園を選ぶということはあると思います。

奥山課長 保護者の考え方もいろいろありまして、幼稚園は学校の一種ということもあり、研究会や発表会などが多く、保育園に比べると休園するケースが多いため、その日は保護者の方が会社を休まなければならない、非常に難しいと保育園を希望する方もいらっしゃいます。

青木副委員長 そうすると、国が認定こども園化を進めたい背景には、所得が高い家庭からは高い保育料を取って運営費をできるだけ抑えたいというところがあるように思えます。

奥山課長 今政府が進めようとしている幼児教育の無料化については、3、4、5歳児の部分についてであったかと記憶しており、0、1、2歳児についてはまだ無料にするという話は出ていなかったと思います。

塩野委員長 認定こども園について、認識を改めて確認できました。そのほか無いでしょうか。

奥山課長 新設保育所の民設民営の公募が30年度とありますが、4月でしょうか。まず場所ということで、駅東地区のゆとりーと小牛田の中の土地を購入する想定で予算を組んでおり、それを取得した後で公募することとしております。その際に、どの事業者によっていただくかを選定する委員会を設けまして、応募いただいた事業者にはプレゼンテーションをやっていただいたり、ヒヤリングを実施したりし、6人を予定している委員会の委員に、どちらの事業者がいいかというところを選定していただくというように考えております。

塩野委員長 30年度にまず土地を購入しなければならないということですね。それから30年度いっぱいかけて、その作業を行うわけですね。

- 奥山課長 そうなります。予定といたしましては、4月から5月の始めくらいまでに確定いたしまして、6月の議会にお諮りし議決をいただくようになります。
- 塩野委員長 複数の業者が集まるかという問題もありますが。
- 奥山課長 募集にもさまざまな公募要項と言いますか、条件を付す予定でありますので、実際どのぐらいの事業者に来ていただけるのかということですが。
- もし、それで施設整備の部分、これは国の補助をいただいたならば町として補助いたしますが、それで御応募いただけない場合には、町で施設を建て、運営する事業者を募集すると。その場合にはもっと先になり、32年4月のスタートがもう少し伸びる可能性がございます。
- それでももし応募いただけない場合には、例えば町で財団法人を立ち上げて、建物も町で建てる、運営も町が出資した法人にやっていただくという形になると思います。
- ですから、私たちといたしましては、最初の、民設民営での整備について期待しているところではございますけれども、実際蓋を開けてみませんと、どのような形になるのかわからないところでございます。
- 塩野委員長 小牛田駅の周辺のことについてはあまり詳しくはありませんが、もともと小牛田駅は東よりも西側の方が商店街などがあり、栄えていたんですよ。仙台駅で言うと、最近の東口のようですよね。これから駅東の方が、住宅地も建って、商業地も増えてくるのだと思います。町全体が駅東の開発に力を入れるかどうかというところが、事業者からしてみれば気になるところではないかと思います。
- 奥山課長 想定している土地はかなり広範囲であり、保育所を確保して、その周りについては考え次第であると思います。そうして進める中で、子どもを自転車に乗せた保護者がたくさん行き交うようになっていけば素晴らしいことだと考えておりました。
- 塩野委員長 電車が通っているということは素晴らしい立地条件、財産だと思っておりますので、ぜひ実現していただきたいと思います。
- 奥山課長 いずれは、やはり子どもが少なくなっていくものだと思いますので、仮にもし、定員割れを起こしてしまうようなことがあったとしても、小牛田駅に近いという利点を生かせば、例えば他市町の、東北本線などを使って仙台へ出勤する方が、駅に近い新設保育所に子どもを預けて、そのまま出勤できると。そのメリットを生かして近隣市町からの受け入れによって、定員割れを回避することができるのではないかと考えております。
- 塩野委員長 意外と一軒家、建売が埋まってくると、駅の近くにマンションだとか集

合住宅地が建って、またお子さんが増えると。他のところでも、高齢化してくるとそういう状態になりました20年近く子どもがいる状態になったりしますが、電車が走っているのは、本当に素晴らしいことだと思います。

奥山課長 実際、駅東地区に家を建てて転入してこられる方が増えておりまして、もうそんなに土地の空きは無くなっております。逆に町内のほかの小学校はだんだん子どもの数が少なくなって、1クラス編成という形になっておりますが、不動堂小学校だけは増えて3クラスになっており、不動堂放課後児童クラブについても、5～6年前は50人や60人しかいませんでしたが、それが70人になり90人になり、現在は100人を超えており、その半分くらいが駅東地区のお子さんになります。

忽那委員 震災後に急に増えましたね。沿岸の方からいらしていたようです。

塩野委員長 駅東の道路の角のかなり広い土地が予定地でしょうか。

奥山課長 ドラッグストアが来るという話でありましたけれども、その敷地以外の部分が候補地です。

忽那委員 ドラッグストアが来るんですね。以前にも話は出ましたがなかなか来ないと思っていました。

奥山課長 詳しいところまではわかりませんが、本来であれば今年の9月、10月頃にオープンするというような話がありましたが。

青木副委員長 今年の8月から10月ころには開店予定という話です。

忽那委員 そういうものがあれば、人は集まってくると思います。買い物のできる場所がなければ、全部西側に行かなければならないですし、コンビニもあの近辺にはないので・・・。

塩野委員長 賑やかになってくれるといいですね。

各委員 (「はい」の声)

塩野委員長 2番目の、小規模保育施設に係る意見について説明をお願いします。

奥山課長 こすずめ園という施設でございます。

奥山課長 別資料 「様式第1号の別添 家庭的保育事業等実施計画書」および「認可保育園こすずめ園入園のしおり」について説明

塩野委員長 只今のこすずめ園について、皆さんの方から御質問、御意見ございましたら、いただきたいと思います。

奥山課長 この4月から運営なさるということですね。定員はもう決まっていると。

奥山課長 はい。既に決まっております。

塩野委員長 ディサービスに通うおじいさんおばあさんと一緒にお孫さんが来ること

もあると。

奥山課長

昔から言われておりますけれども、お年寄りの方というのは、小さな子どもを見ると非常に喜ぶといったことがありますので、そういったことから言えば、良い組み合わせかと思っております。なかなか町立施設になりますと、老人ホームと幼稚園、保育園との密接な交流というのは難しいものがございます。その影響と言いますか、介護が必要な方々と子どもとの関わり方を図る一つのケースにもなるかと考えております。実際、体が御不自由な方や寝たきりの方ではなく、認知症の方ですので、小さい子どもが近くにいるというのは、良い刺激になると思っております。

奥山課長

幼稚園、保育所の先生いかがですか。

鈴木園長

看護師さんと保育士さんたちが綿密に立てた計画だと見させていただいております。たまたま、私の知り合いの大崎市の保育士さんが、こちらでお手伝いなさるという話も聞いておりますので、現実にはやっていた方が綿密に計画を立てているものだと感じました。また、看護師さんとも連携しているということで、衛生面でも配慮されていると思います。参考にしたいと感じたのは、アレルギー持ちのお子さんに対して、初めて食べる食材は提供せずに、少しずつ確認していくという部分で、保育士や調理師の人数等にも関係してくることだとは思うので、その辺もよく勉強なさっていると感じながら見させていただきました。人数的にも保育士さんも結構いらっしゃいますし。

佐々木委員

この通り行われることに期待しましょう。

鈴木園長

このように、小規模の施設ができるということは公立の保育園にとっても、受入れ口が少ないと言われている中で、良い方向に向いていて望ましいことだと思っています。

ところで、小規模保育A型という形でこすずめ園さんはなっているのですが、A、B、Cの違いはどういうものでしょうか。

奥山課長

まず、小規模保育事業というものは、19人までが定員になっております。認可保育所は定員が20人以上のものになります。それで、市町村が認可権を持っている地域型保育事業の中に、この小規模型保育事業が入っております。そして、それに見合った、例えばこすずめ園ですと、6人の3クラスで、保育士の配置も認可保育所と全く同じであります。そして、A型の場合は19人が定員ですが、保育に従事する職員が全員保育士でなければなりません。B型の場合には保育士が半分程度、C型の場合には保育補助者という形になります。C型の場合には基本的に9人が定員ですが、経過措置として当面の間は15人まで保育できるということになります。

おひさま保育園の方も15人でということでお話しいただいておりますけれども、基本的にはA型で、という考えのようです。

塩野委員長 よろしいでしょうか。

それでは小規模型保育施設については終わりにしたいと思います。

その他ということで、お願いします。

奥山課長 はい。その他でございますけれども、事務局からは特にございません。

塩野委員長 それでは議事については以上で終わりとします。

引き続き事務局からお願いします。

奥山課長 それでは議事については終わりとさせていただきます、4のその他についてでございますけれども、前回委員会で、29年度で児童福祉施設の長寿命化計画を策定すると。また、美里町子どもの生活に関する実態調査、子どもの貧困実態調査であります、それを行っていると申し上げました。その概要版について、今回資料としてお示しさせていただきました。それにつきましては、須田補佐から御説明申し上げます。

須田補佐 子ども家庭課課長補佐の須田です。よろしくお願いいたします。

須田補佐 別資料 「美里町児童福祉施設長寿命化計画(案)」概要版および美里町子どもの生活に関する実態調査結果概要について説明

奥山課長 捕捉でございますけれども、子どもの貧困に関する実態調査の結果の詳細版につきましては、教育委員会、健康福祉課の方にも既に提供しております。そして、来年度になりましたらその3課と会議等をもちまして、子どもが置かれている状況をどのように考えるか、それを支援するためにはどんな施策が必要かというものを検討していく予定であります。そしてそれを、31年度に策定する「美里町子ども・子育て支援事業計画」に反映させていくことを考えております。

奥山課長 御説明につきましては以上でございますけれども、御質問等がございましたら、どうぞ。

奥山課長 子どもの生活に関する実態調査の結果を受けまして、7人に1人が貧困に該当するとテレビなどでも言われている中で、美里町ではどのような結果が出るのかと思っておりましたが、実際蓋を開けてみましたら、やはり同じように7人に1人というパーセンテージになりました。また、私が一番危惧しましたのが、自己肯定感について、「自分は価値がある人間だと思うか」について、貧困線未満の子どもと貧困線以上の子どもとでは10ポイント程度の差があるということです。よく言われますのが、「どうせ僕なんか」という考え方になってきつつあると。子どもの貧困の連鎖を崩さなければならないということもよく言われておりますけ

れども、美里町でも同じように、貧困線未満の子どもと貧困線以上の子どもの、ものの考え方、感じ方に差があるように思います。何とかその部分を支援し、将来に希望を持てるような施策を行っていきたいと考えております。

塩野委員長 この自己肯定感と将来の目標の傾向というものは日本人の特性で、海外に比べると非常に低いものです。貧困やそうではないという問題よりも、日本人全体の根底にあるものなので、なかなか、貧困だから、貧困じゃないからという問題でもない所から引き上げるというのはかなりのエネルギーがいると思います。

鈴木園長 たまたま幼稚園、保育園両方を経験しましたが、働かないから金銭的に大変だという実情もわかるから、子どもを預けて自分は働き少しでも経済的に余裕を、というものわかりますが、親自体が子どもに目を向けなかったり、いくら経済的に満たされている家庭でも、子どもをなおざりにしていたりなど、いろんなパターンがあるのが見えてきました。それで、この貧困問題に含めて、親育てというか、赤ちゃんを育てるお母さんに子どもの可愛さを教えたりとか、そういうことが、美里町に限らず必要だと思っております。

青木副委員長 お父さんお母さんのあり方を子どもは見ていると思うので、産後クライシスの形ではないですけど、夫婦仲が悪かったりすると、「俺っているのかな」と感じてしまったりとか、いろんな要素を感じているんだろうなとは思っています。もちろん貧困のこともかなり影響していると思います。

鈴木園長 そうです。しかしだからと言って一概にそれだけとも限らないとは思っております。あとは保育士さんや幼稚園の先生たちの、保護者への言葉がけだったり、保護者の気持ちを盛り上げていくことが、子どもへの言葉に変わっていくようなところは、大きいと感じています。

塩野委員長 親自身が評価されることがないので、親自身自信が無いというか、子育てで自分の時間が奪われて、ますます疲れるというか、そういった悪循環があるように思います。日本人は今まで、他国に比べ裕福で恵まれているのかなと考えていたら、遅しさが無いんですね。日本の子どもたちというのは。全国的な問題ですけども、これを、この町で盛り上げるにはどうしたらいいかということを、非常にコンパクトな町なので、皆で考えて、皆で盛り上げていくという姿勢が大事だと思います。日本全部を盛り上げようというのはなかなか難しいと思いますけれども、町として問題意識を持つきっかけということには非常に大事な資料だと思いました。

青木副委員長 資料2ページの「過去1年間で必要なものが買えなかったり、支払いが遅れたり、支払えなかったこと」の中で、税金が支払えなかった方が、

貧困線未満の家庭で25.3%と出ていますが、この貧困線未満の家庭というのは、非課税世帯までいかない所も含まれてくるということになりますよね。

奥山課長 はい。2人であれば、可処分所得が例えば百何十万円以下ですとか、そのような世帯も含まれます。

青木副委員長 その下の電気、ガス、水道光熱費も支払いが遅れたり、支払えなかったりした経験があるというところを見ると、まずい問題というか、冬場や夏場にエアコンが使えないとか、健康保険料が払えないから病院にかからないとか、そういうかなり大きな問題に直面している家庭もかなりあるのかなと感じます。この辺を何か救う手だてを考えていかないといけないところだと思いました。止められると、払う当てがないと払えないですね。健康保険もどんどん溜まっていったら払えなくなるという。下手をすると命に関わってくることも出てくるのかなと思います。

奥山課長 例えば学習支援の部分であれば教育委員会でもいろいろと考えておりますし、生活保護までいかなくとも健康福祉課サイドから何かできないか、そしてそれらを取りまとめて音頭取りを行うのが子ども家庭課という形で、その3課で今後いろいろと協議をしていく必要があると考えている次第でございます。

各委員 (ほかに質問等無し)

奥山課長 それでは、次回につきましては平成30年度になってからということになります。次の会議の日程は未定でございますので、準備が整い次第皆様に御連絡差し上げるようにさせていただきたいと思います。
では、以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

平成 年 月 日

会議録署名委員

委員 _____

委員 _____